

今月のトピック

政 治

- ◆穂坂外務大臣政務官のブルガリア訪問
- ◆道上大使のジェリヤズコフ国民議会議長との会談
- ◆6月総選挙の実施・暫定内閣の発足

経 済

- ◆ニデックインスツルメンツゲンマーク社(日系企業)のブルガリアオフィス開所
- ◆トルコからの天然ガス調達に関する記事

その他

- ◆道上大使のソフィア市内お花見行事 2 件への出席
- ◆第 30 回日本語弁論大会の実施

※月報は、ブルガリア各種メディアの報道等を取りまとめたものであり、在ブルガリア日本大使館の意見や判断を反映するものではありません。

※月報の個別メール配信を希望される方は、当館メールアドレス(emb-jp-bg@sf.mofa.go.jp)まで御連絡下さい。

政 治

◆穂坂外務大臣政務官のブルガリア訪問

▶2024 年（令和 6 年） 4 月 26 日、穂坂政務官はアンゲリエヴァ・ブルガリア共和国外務副大臣と会談した。穂坂政務官は、本年の「3 つの周年」（注：交流開始 115 年、外交関係樹立 85 年、外交関係再開 65 年）を契機に、民主主義等基本的価値を共有する両国の関係が更に発展することを期待している旨述べた。また両者は、厳しさを増す国際情勢の中で、両国が多国間協力の場においても協力を拡大していくことで一致したほか、欧州や東アジアを含む地域情勢について意見交換を行った。

▶また、穂坂政務官は、ドンチェフ対日友好議連会長及びナザリヤン国民議会議員とも懇談し、議会間交流をはじめとする日・ブルガリア関係の促進等について意見交換した。

▶同日、穂坂政務官は、ビジネスパーク内にある SEGA 社事務所を訪問し、プログラム開発者らによる製品デモンストレーション等の視察を行った。穂坂政務官は、同社関係者との意見交換の中で、同社の進出は、日本企業と優秀な IT 人材を抱えるブルガリアとのビジネス交流の好例である旨述べた。



▶同日、穂坂政務官は、ソフィア市第 18 総合学校（平成 26 年外務大臣表彰受賞）を訪問し、キリロヴァ校長をはじめ、日本語教師や日本語学習学生らと面会し、授業を視察するとともに、ブルガリアにおける日本語教育事情に関する意見交換を行った。また、4 月 27 日、穂坂政務官は、第 30 回日本語弁論大会に出席し、同コンテストの関係者への謝意を述べたほか、出場者を激励した。



◆道上大使のジェリヤズコフ国民議会議長との会談

▶2024 年（令和 6 年）4 月 10 日、道上大使は、ジェリヤズコフ国民議会議長と面会した。道上大使は、厳しさを増す国際情勢の中で、日本とブルガリアとが伝統的な友好関係を大切にしながら関係を再活性化すべく、ブルガリア国民議会とも緊密に連携していきたい旨述べた。また、近年日本ビジネス界が IT 等で強みを見せる若手世代のブルガリアに注目しつつあることを紹介し、来年ブルガリアが参加を予定する大阪・関西万博がビジビリティ向上の機会として有効活用されることを希望する旨述べた。

▶ジェリヤズコフ議長は、訪日経験に触れつつ、基本的価値を共有する両国の関係は、「3 つの周年」を契機に戦略的パートナーシップへと発展すべきとし、これに伴い投資、貿易を含む経済関係が一層拡大することへの期待が表明された。双方は、議会間交流を含む日・ブルガリア関係の一層の促進に向け、緊密に連携していくことで一致した。



◆6月総選挙の実施・暫定内閣の発足

▶4 月 9 日付け大統領令により、国民議会選挙及び欧州議会選挙がともに 6 月 9 日に実施されることが決定した。同日、大統領令によりグラフチェフ暫定内閣が発足した。同内閣はその後一部改造され、特に外務大臣については 4 月 22 日からグラフチェフ首相が兼任している。

経 済

◆ニデックインスツルメンツゲンマーク社のブルガリアオフィス開所

▶4 月 22 日、道上大使は日本電産関連会社、ニデックインスツルメンツゲンマーク社（以下 NIG 社）ブルガリアオフィスの開所式に参加した。開所式にはテルジエフソフィア市長、アンゲロフ革新成長副大臣、クラロフソフィア工科大学学長等が参加し、ラデフ大統領からの祝辞も代読された。

▶NIG 社は日本電産グループであるニデックインスツルメンツ社（旧日本電産サンキョー社）がブルガリア資本のゲンマーク社を買収して誕生した会社であり、半導体製造ロボットを開発、製造している。ニデックインスツルメンツ社は日本電産が制作したモーターを活用した様々な機械（ロボット、カードリーダー、オルゴール等）を製作しており、ゲンマーク社はブルガリア人が米国で立ち上



開所式でのテープカットの様子

げた半導体製造ロボットを開発・製造している会社である。

▶NI 社がゲンマーク社の買収及びブルガリアオフィスの開設を決めた理由はブルガリアの優秀な IT 人材を活用できることにある。同社では、今回ブルガリアにオフィスを開設することで、ソフィア工科大学等と連携しながら更なる優秀な人材を雇用していく予定である。

◆トルコからの天然ガス調達に関する記事

▶4 月 19 日、ブルガリア国民議会は 2023 年 1 月 3 日に締結されたブルガリア国営天然ガス供給会社ブルガルガスとトルコのエネルギー会社 BOTAS との協定について、再交渉を行うようエネルギー大臣に命じる決議を 166 対 32、棄権 1 票の賛成多数で採択した。

▶この問題の発端は、ブルガルガスと BOTAS 社とで結ばれた協定内容に疑義があることにある。契約では、毎月 50 万米ドル以上の支払いと引き換えにトルコの LNG ターミナルから年間 18 億 5000 万立方メートルの容量のガスを 13 年間にわたって確保するようになっているが、実際には協定開始後、15 ヶ月以上経ったにも関わらず、ブルガルガスが提供したトルコからのガスは 2 億 5,000 万立方メートルにも及んでいない。この契約は本来閣僚会議で合意されなければならないものであるが、実際には 8 名の閣僚が署名したのみとなっており、国内の承認プロセスが違法であった疑いもかけられている。

▶4 月 24 日、ラデフ大統領は国会に対し、なぜ BOTAS 契約容量が未使用のままなのかを調査するよう求めた。話の中でラデフ大統領は、ブルガリアの年間約 30 億立方メートルのガス消費のうち、去年はアゼルバイジャンから 10 億立方メートルを輸入し、残りの 17 億立方メートルのガスをロシアから輸入したため、BOTAS との契約容量がほぼ未使用のまま残っていることを打ち明けた。また、来年初めからロシアからウクライナを経由してヨーロッパへ天然ガスを輸送する契約が更新されない可能性が非常に高く、そうなればオーストリアやハンガリーなどの国々が新たなガス供給ルートを実行に必要とするようになり、ブルガリアからのガス供給への切り替えを求めてくるため、その際に、BOTAS との契約が極めて有益なものになる可能性がある旨を述べた。

▶このような一連の流れを受け、4 月 27 日、ブルガリアのマリノフ・エネルギー相とトルコのバヤラクターエネルギー天然資源相が、イスタンブールで会談を行った。ブルガリア側はブルガルガス社と BOTAS 社との協定見直しを希望する意向を示し、トルコ側はブルガリア側に対する理解と今後の協力の用意がある旨を示した。また、二国間の送電・ガスパイプラインの接続性を高めること検討中であることが両者で確認されるとともに、マリノフ大臣は、ブルガリアの天然ガス供給源の多様化、地域および欧州のガス市場にとって、この協定が重要であることを強調した。

▶本件は、現時点ではブルガルガス社と BOTAS 社との契約に関する全容解明を待つ状況であるが、流れによってはブルガリアが東欧のエネルギー安全保障において重要な役割を担う要素となりうる。そのため、欧州エネルギー安全保障の動きと併せて今後の動向を注視していく必要がある。

その他

◆道上大使のソフィア市内お花見行事 2 件への出席



- ▶東海大学同窓会ブルガリア支部が主催するお花見行事が 4 月 10 日、ブルガリア国立図書館において開催されたほか、日本友の会が主催するお花見行事が 4 月 13 日、サウスパークで開催され、いずれも道上大使が出席した。前者については約 200 名、後者については約 400 名が来場するなど、天候にも恵まれた盛況の会となった。
- ▶東海大学同窓会ブルガリア支部が主催するお花見会は、1999 年に東海大学から桜の苗木が寄贈され、図書館広場前に植樹されたことをはじまりとし、今や 25 年以上続くブルガリアの伝統的な春の行事となっている。当日はブルガリア国営ラジオ児童合唱団による日本の歌の披露、市内日本語教育機関在学学生（第 138 学校）による日本の歌に合わせた踊りの披露、ブルガリア俳句連盟メンバーによる俳句作品の紹介等が行われた。
- ▶日本友の会が主催するお花見会が開催されたサウスパークでは、1975 年以降、日本とブルガリアの友好のシンボルとして桜の植樹が行われおり、本年は新たに桜と楓の苗木が植樹された。当日は、各日本語教育機関在学学生（ソフィア大学、第 18 学校、第 138 学校）による日本の歌や踊りの披露、昨年末から日本人よさこいインストラクターの指導の下、よさこい踊りに取り組む第 51 学校の生徒による演舞の初披露が行われたほか、武道のデモンストレーションやブルガリア俳句連盟による俳句コンテスト入賞者に対する表彰等が実施された。本行事は当地の主要メディアにも取り上げられた。

◆第 30 回日本語弁論大会の実施



- ▶4 月 27 日、穂坂政務官冒頭出席の下、第 30 回日本語弁論大会が開催された。ブルガリア科学アカデミー講堂において、在ブルガリア日本大使館及び聖キリル・メトディ国際基金が共催する日本語弁論大会において、穂坂政務官は、同コンテストの関係者への謝意を述べたほか、出場者を激励した。
- ▶ソフィア大学、ソフィア市第 18 学校、ソフィア市第 138 学校、ルセ市ヴァシル・レフスキ学校から 14 名が出場した。ヴァルナ近郊ツォネボ村の日本語学習児童による日本語劇『桃太郎』も上演された。大会では、各部門におけるテーマ自由のスピーチ発表（約 3 分間）と弁論内容に関する質

疑応答に対する審査が行われた。

▶表彰式では、各部門における上位入賞者らへの表彰、道上大使ほかによる講評が行われた。最後に、聖キリル・メトディ基金タチェフ事務局長より全出場者へ参加賞が贈られた。

指標	
GDP 成長率(年率予測:最新値) ※EC データ	24 年:1.9% 25 年:2.5%
消費者物価指数(3 月) ※ブルガリア統計局データ	+0.2%(前月比) +3.0%(前年同月比)
失業率(3 月) ※ブルガリア労働省	5.8% (前月比±0%)
公的債務残高/GDP(含む国および地方:2 月)	20.0% (前月比±0%)

※ブルガリアのマクロ経済指標は、ブルガリア国立銀行HPよりご覧になれます
(https://www.bnb.bg/Statistics/StMacroeconomicIndicators/index.htm?toLang=_EN)。